

これらの地域において、特にすぐれた自然環境やすぐれた自然の風景地を保護するため、特別地区などの設定を進めてゆく。

また、今後、自然環境保全地域などに設定や編入することがふさわしい区域においては、努めてこれを推進する。

〔「8」の地域〕

この地域は、山地帯の下部から丘陵地帯にかけて分布し、ミズナラ林やコナラ林など、自然林が繰り返し伐採された跡に成立した植生が主で、鳥獣類もごく一般的な親しみのあるものが多く生息しているなど身近な自然の地域である。

このなかには、歴史的環境と一体となっている森や林や、地元の人々が古くからなじんでいる谷川や丘陵なども多く、さらに、これらを含めて、自然公園などの景観などを構成する地域でもある。

このため、この地域については、農林業との調整を図りながら将来にわたってこれを保全していかなければならない。この地域のうち、すでに、自然環境保全地域、自然公園地域、さらには、緑地環境保全地域の設定がなされている区域があるが、これらの区域については、今後学術調査の成果や都市計画法に基づく風致地区との関連を踏まえ、それぞれ適切な保護・保全措置を進めていく。

〔「7」～「2」の地域〕

この地域は、広く、県民の生活の場、生産活動の場として利用されている。農林業の営まれる地域は、食糧や木材の供給と併せ、これらの生産活動をとおして、県土の保全、水源のかん養、大気の浄化、野生鳥獣の生息など、自然のバランスを維持するという面において、重要な役割を果たしている。また都市近郊の樹林地、草地及びその他の生産緑地などは、日常生活と密接なかかわり合いを持った自然環境でもある。

したがって、この地域においては、この地域が持つ、県土保全、環境保全及び野外レクリエーションなどの機能を考慮して、それぞれの利用の形態に合わせ、自然環境の保護・保全を図っていかなければならない。

特に、この地域において、すでに自然環境保全地域の普通地区、自然公園の普通地域、さらには、緑地環境保全地域の設定がなされている区域があるが、これらの区域については、今後学術調査の成果や都市計画法との関連、農林業との関連などを踏まえ、それぞれ適切な保護・保全措置を進めていく。